

肝心かなめの

肝臓 のはなし

2

香川大学医学部消化器・神経内科教授
正木 勉

今回の話題はA型急性肝炎です。A型肝炎は、A型肝炎ウイルスによる急性肝炎のひとつです。主な感染経路は経口であるため、時に集団感染することもあります。最も多いのが、国内では生がき・生貝などの摂取によるものですが、海外では生水（井戸水を含む）を飲用した際に感染する場合があります。

A型急性肝炎

生貝や生水摂取で感染
初期は風邪に似た症状

症状としては全身倦怠感、食欲不振、嘔吐、発熱などの風邪に似た症状が表れます。回復期には黄疸症状が見られるのが特徴的です。また、血液検査では肝細胞内に含まれる酵素トランスアミンナーゼ（AST、ALT）の上昇とビリルビン（黄疸の指標）の上昇が認められます。このとき、A型急性肝炎感染を考慮し、血液中のIgM型のHA（A型肝炎ウイルス）抗体を調べ、陽性ならばA型急性肝炎と診断します。

潜伏期間は2〜6週間である場合が多いので、肝炎発症2カ月以内で国内での生がき、生貝

の摂取および、海外渡航時の生水や生ものの摂取の問診も、重要な診断の手がかりとなります。感染を避けるため、下水道の設備の整っていない地域への海外渡航では、生水を飲用しないことが重要です。発展途上国などに長期間渡航する場合は、あらかじめワクチン投与する場合同もあります。

―安静で肝臓への血流増やす

A型肝炎は、ウイルスに感染して、約2〜6週間の潜伏期を経て、急性肝炎で発症し、ほとんど通常1〜2カ月で治癒します。治癒すれば、終生免疫が得られるので、再び感染することはありません。ただ、ごくまれ（1%未満）に劇症化（肝臓の壊死が急激に起こる）、あるいは急性腎不全を起こす場合があります。

り、死に至る場合もあります。

A型急性肝炎を含め急性肝炎の治療は、ベッド上安静が最も重要な治療となります。肝臓への血流量が座っている場合に比較して、約50%以上増加するため、肝臓の治療速度を高めてくれるからです。

栄養としては過去においては、高カロリー、高たんぱく食といわれていましたが、現在では糖質を主体に、1日体重1kgあたり30g程度で十分であり、他の食事内容は油脂を控え、消化のよいものをバランスよくとることです。つまり、体重60kgならば1800g程度で、食欲不振などで摂取できない場合は、ブドウ糖液などの点滴で補います。